

証めぐり議論

第9回会合開く

は、二月七日に、兵庫大学(三三)いた。全国から桜美林大学、関西平大学があり、合計八大学が出席大平曜子兵庫大教育副学長、有ンター長の各挨拶があった。

は、二月七日に、兵庫大学(三三)いた。全国から桜美林大学、関西平大学があり、合計八大学が出席大平曜子兵庫大教育副学長、有ンター長の各挨拶があった。

発センター津野十紫事務長補佐、淑徳大学高等教育研究開発センター黒澤伸夫課長、兵庫大高等文哲講師であった。

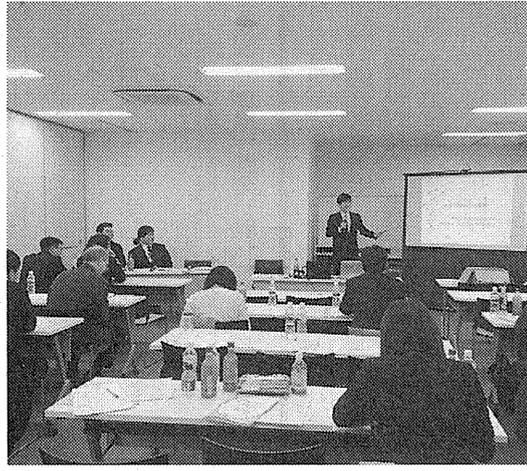
主な内容は、各大学の報告で議論された問題点や課題も含めて次の諸点であった。①大学教育の質保証(三つのポリシー、アクティブラーニング、ディープ・アクティブラーニング、カリキュラム・アセスメント、ルーブリック、ポートフォリオ、成績評価、単位制)において、先述の「紙面参加」を除いた各大学の本年度の活動に関する報告に基づき質疑応答が行われた。発表者は桜美林大学教育開発センター鈴木克夫センター長・教授、浦田広朗IR部門主任・教授、関西学院大学高等教育研究推進センタ―永井良二事務長、京都産業大学教育支援研究開

ーベース、⑩学生支援(ラーニング・コモンズ、グローバル・コモンズ、ライティング)⑪機関別認証評価。多岐にわたる報告と質疑が活発に行われたなかで、全国的に二〇一八年問題が深刻の度を増している今日、メンバー大学は概してスケール・メリットが有効に作用する規模の大学であるから、②の定員割れの危機感は少ないことが判明した。しかし全体の共通問題は、①の質保証が次第に重要度を増している点に見出された。質保証の進捗度には大学間に温度差が無いとは言えないが、成功事例や失敗事例を相互に情報交換に

複数大学セミの研究発表会

学生企画・実施による報告が話題に

複数の私立大学の学部学生が日本アクティブラーニングセミのコンソーシアムを立ち上げ、研究成果を公表した。成果報告を行ったのは、松蔭大



研究発表会の様子

よって確認し、相互に切磋琢磨することが重要であることを再確認した。協議会は創立九年を経過した時点で、各大学が日頃から蓄えてきた実績を持ち寄り、時宜を得た情報交換を行い盛會裡に終了した。

(文責：有本 尊)

施設「アミューあつぎ」で開催した。

最近注目を浴びているアクティブ・ラーニング(A.L.)はその有用性・必要性が高いがその内容・実態は公表されにくく、学内においても他教員がどのようなA.L.の授業をしているかさえも共有されることが多い。学部学生の調査・研究は、たとえ価値のあるものでも、その成果は公表されないことが多い。こうした背景のもと、三つのセミが合同で成果報告会を行った。

発表のテーマの一つである、「失言と判断される要因」、「報酬の有無による結果の違い」、「夢について―明晰夢を見るためには」などは、身近であるが日常的にはあまり深く考えていない疑問である。また、「地方創生神奈川県西部過疎地域の活性化と雇用促進具体案」は、関東地域でも起きている過疎化対策として、既成概念にとらわれない学生らしい発想による提言があった。そして、「Modioを用いた『プログラミング基礎』における学習履歴の分析」は、自分たちの学習履歴を、教員でなく学生が分析し、問題点・改善点を盛り出すという新しい試みが紹介された。発表大学以外の専門家が研究者も参加しており、「先行研究・文献では、どうなっていますか?」「別の分析の仕方では、どうなりますか?」「サンプルの偏りや数に問題はないの?」「『e』検索も、場合によっては活用したら?」「結論・要約や、研究仮説は先に述べたら?」など、ふだんのセミとは異なった鋭い質疑・指摘があり、制限時間が足りなくなるほど、活発な討論が行われた。発表の後には、優秀賞に加えて厚木市からの市

長賞が決定した。このたびは、学生たちが毎月二回ほど会合を設けて、企画、運営、実施の全てを取り仕切った。さらに、新たな試みとして論文集を発売。その巻末には、学生が企業の広報部を訪問し企業協賛を得て、広告を掲載した。また、ラオンセミナーを企画し、企業によるプレゼンテーションを実施した。通常の学会では、教員である運営委員が行っていることを、すべて学部学生が実施したことになる。

このように学生主導の企画・立案・実施は、学生のセミ活動のみならず、アクティブ・ラーニングにおける学習活動・社会参加の新しい形態であり、今後の発展が期待される。

ポートフォリオ

崇城大で講演会

崇城大学は、三月二十六日、同大学で、第三回FD講演会「主体的な学びを醸成するポートフォリオ」を開催する。

基調講演に、岩井 洋氏(帝塚山大)、藤本元啓氏(崇城大)、その後、コーディネーターに喜久里要氏(早稲田大)、指定討論者に田中岳氏(東京工業大)を交えてパネルディスカッションを行う。

参加無料。詳細、申し込みはウェブサイトに。問い合わせは教務課(〇九六―三三六―三四〇六)まで。

IRセミナー

3/15 横浜商大で

横浜商科大学は、三月十五日、つるみキャンパスで、IRセミナーを開催する。

第一部は、「指標をベースに構築するIR活動」と題して松田岳士首都大東京大学教育センタ―教授、「GAKUENシリースの活用とIRについて」と題して遠山克美恵泉女学院大学IR推進室長が講演する。

参加無料。申し込みは、ウェブサイトで。問い合わせは、管理部IR室(〇四五―五八三―九〇五六)まで。

支障サービスに過度に依るには本来、多様性がある

ていふことを示唆して 題一の年をついに迎え の高い大学が存続し、そ 答えている。その一方